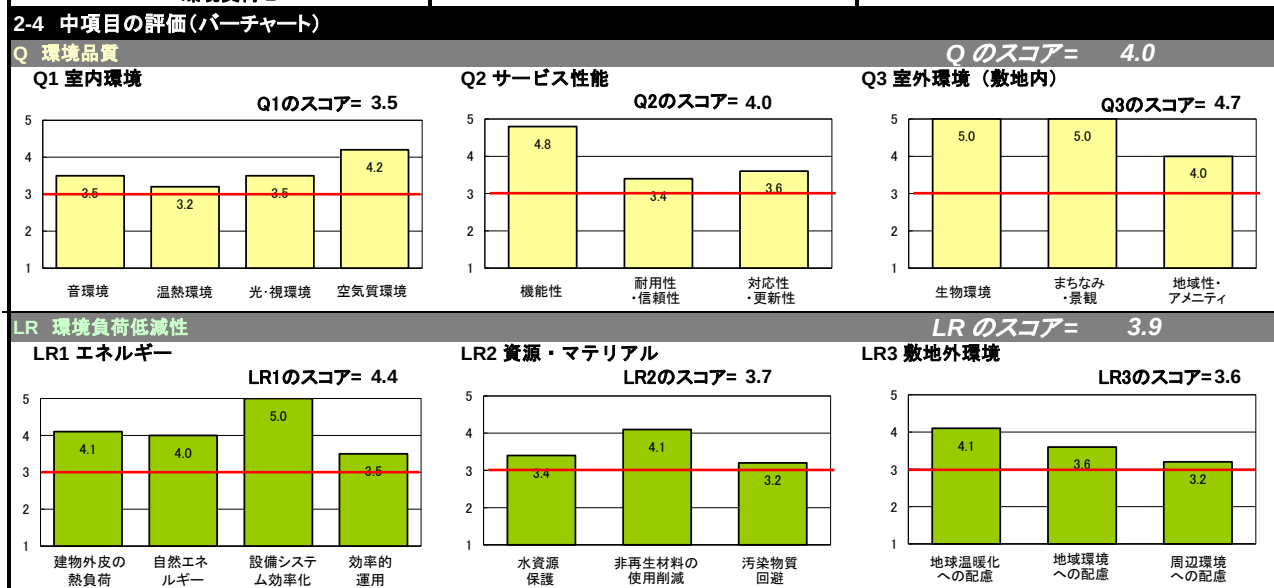
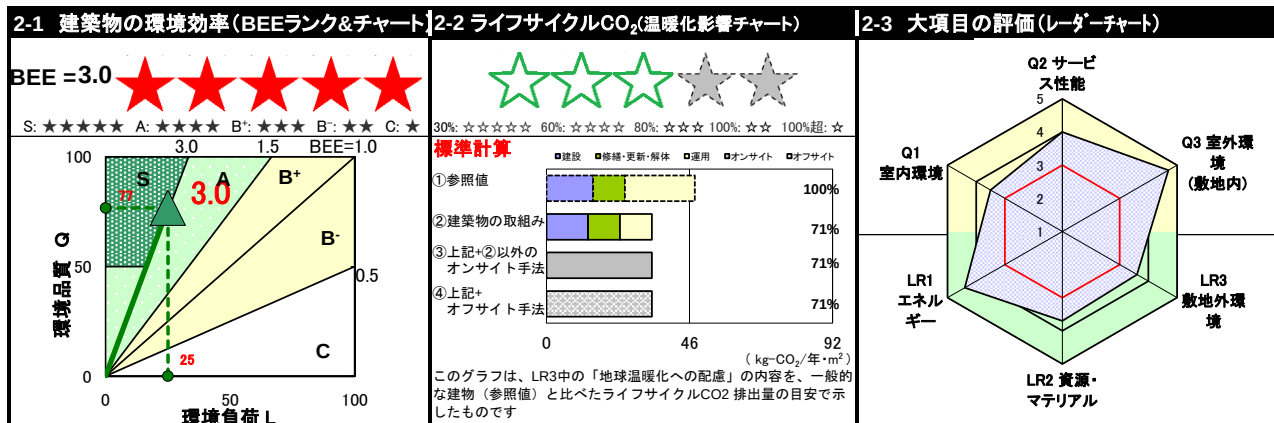


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋市立大学滝子キャンパス	階数	地上5階建て
建設地	名古屋市 瑞穂区 瑞穂町字山の畑1-1外3 筆	構造	S造
用途地域	市街化区域/第一種住居地域/準防火地域 /31m高度地区	平均居住人員	1,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年10月 予定	評価の実施日	2025年2月14日
敷地面積	20,566 m ²	作成者	
建築面積	7,750 m ²	確認日	2025年2月14日
延床面積	23,142 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 市民が利用する市立大学として、室内環境の快適性や景観への配慮なども含めた建物全体の環境品質の総合的な向上を図ります。特に、CASBEE名古屋で重点項目とされている①温暖化対策 ②自然共生 ③循環型社会や独自項目のバリアフリー計画、リサイクル材の使用などを重視し、地球環境や名古屋市の地域環境に貢献する大学を目指します。		その他 - 建設発生土の現場再利用 - 掘削による建設発生土の外構工事盛土としての再利用
Q1 室内環境 - 外皮性能 レベル5 - 軒の深いピロティによる熱負荷の低減 - 屋光利用設備 レベル5 - トップライトと吹抜による自然光の効果的な採入れ	Q2 サービス性能 - リフレッシュスペース レベル4 - リフレッシュスペース・テラスの分散配置	Q3 室外環境(敷地内) - まちなみ・景観への配慮 レベル5 - 風景に調和した外装・屋根色彩、地域性のある外装材 - 地域性への配慮、快適性の向上 レベル5 - 地域性のある材料(レンガ舗装)
LR1 エネルギー - 建物外皮の熱負荷抑制 レベル5 - 試算値BPI=0.49 Low-Eガラスの採用や十分な断熱材 - 自然エネルギー利用 レベル4 - トップライト、重力換気	LR2 資源・マテリアル - 水資源保護 節水 レベル4 - 節水コマ、凝音装置、節水型便器の採用 - 非再生性資源の使用量削減 材料使用量の削減 レベル4 - 主要構造体の鉄骨の基準強度 F=400以上	LR3 敷地外環境 - 温暖環境悪化の改善 レベル4 - 卓越風を遮らない建物形状、風環境シミュレーション - 交通負荷抑制 レベル4 - 十分な敷地内車路引き込みによる交通渋滞の抑制

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

名古屋市立大学滝子キャンパス

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.3
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.1	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.05	
2. 自然共生				4.4
Q3.1	生物環境の保全と創出	5.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.9
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.3



2. 自然共生

評価点 = 4.4



3. 循環型社会

評価点 = 3.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。